令和２年７月７日
新潟県病害虫防除所

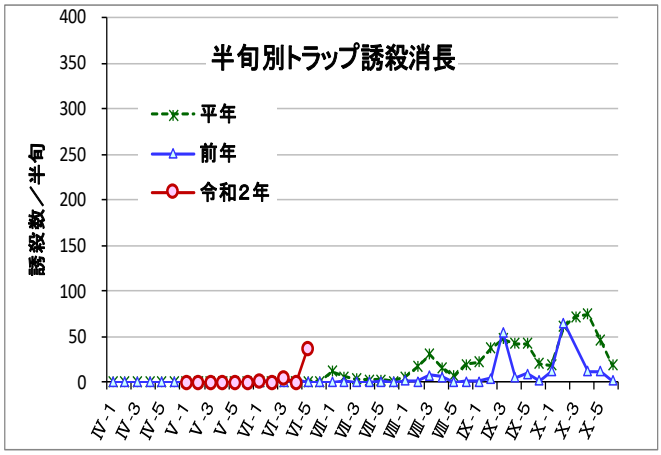
令和２年度
新潟県病害虫発生予察速報第６号
（ハスモンヨトウの多発生に注意）

１　発生状況

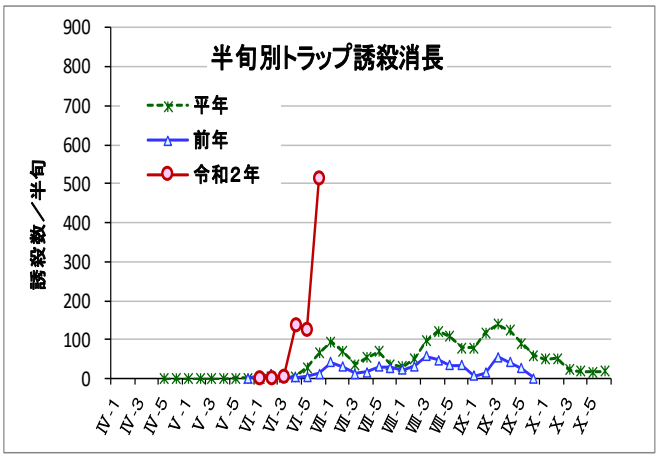
（１）聖籠町真野（園研セ）、佐渡市中興（佐渡農技セ）、五泉市一本松・木越に設置しているフェロモントラップへの誘殺虫数は、いずれも６月第４半旬頃から平年を上回り急激に増加している（図１）。

（２）特に佐渡市中興では、６月第６半旬に 514 頭（平年 65.1 頭）、五泉市一本松では６月第５半旬に 87 頭（平年 3.8 頭）の誘殺が認められ、今後も増加することが予想される（図１）。

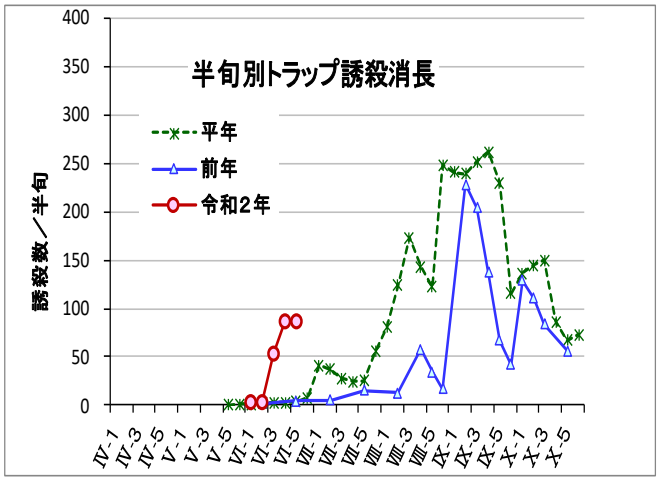
（３）気象庁発表の向こう１ヶ月予報では気温は平年比で高いと予報されており、本種の増殖や食害を助長すると考えられる。



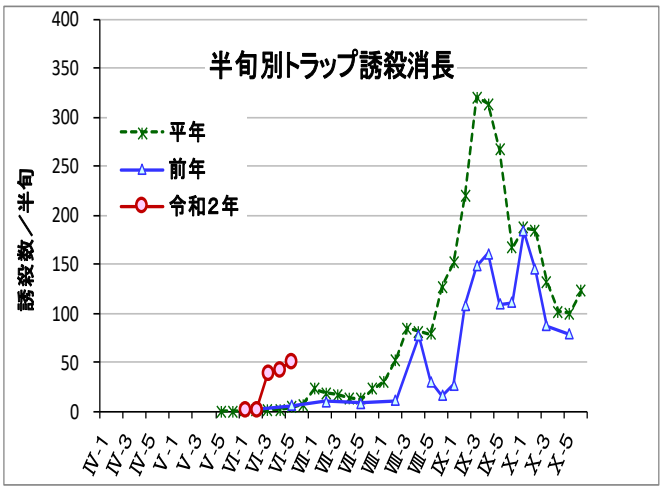
聖籠町真野（園研セ）



佐渡市中興（佐渡農技セ）



五泉市一本杉



五泉市木越

図１　フェロモントラップにおける各地のハスモンヨトウ成虫の誘殺数（半旬別）

２　今後の対応と注意点

（１） 本種は広範囲の作物を食害し、野菜、畑作物、花き、果樹まで被害が及ぶ。幼虫は、さといも、ねぎ、なす、小豆、大豆、かきなどの葉・果実を食害する。

（２）若齢幼虫は集団で食害し、その後周囲に分散するので、卵塊や分散前の被害葉の早期発見と除去を実施する。

（３）齢が進んだ幼虫では薬剤の効果が大きく低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。

（４）薬剤抵抗性の発達を防止するために、作用機構の同じ薬剤の連用を避け、作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用する。